

図書館だより

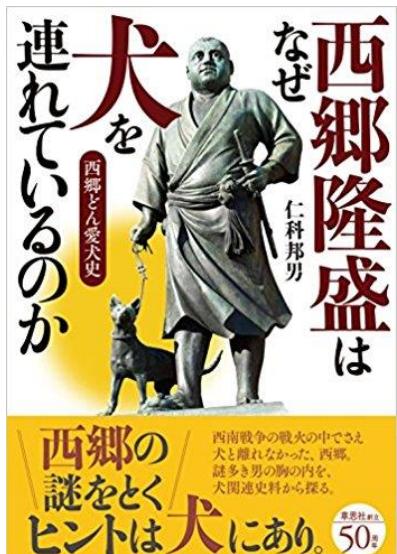
– Library NEWS –

Vol. 2
2018 年

今月のおすすめ本

毎号、キーワードを元に関連した本を紹介します。教職員や生徒の感想も掲載しますので、「おもしろそう！」「読んでみたい！」と思ったら、図書館に行ってみましょう。

キーワード 「 いぬ(戌) 」



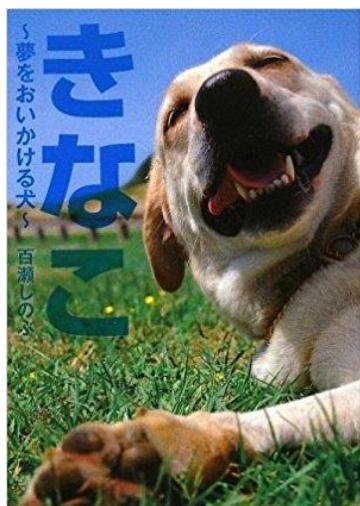
■仁科 邦男
『西郷隆盛はなぜ犬を連れているのか』

昨年の「女城主直虎」に続いて、今年の大河ドラマは「西郷どん」です。ドラマ初回の冒頭シーンは、上野にある銅像の除幕式からでした。私も西郷さんといえばこの犬を連れた銅像が思い浮かびます。

西郷は、明治維新に大きく関与したとされますが、私は下級武士であつた西郷が、幕末に日本変えてしまう人物にどうしてなれたのかということに、もの凄く関心があります。

そんな西郷が、なぜ犬を連れているのか、一説には「肥満」が関係していると言われていますが、この本では、犬を連れてまで武力侵攻した理由の一つに、西郷は戦争をしたい訳ではなかったという意思表示が見えてきます。今年の話題の人物、西郷隆盛を犬とセットにして味わってみたらどうですか。

副校长 上村 敏正 先生



■百瀬 しのぶ
『きなこ～夢をおいかける犬～』

見習いの警察犬「きなこ」と見習いの訓練士「杏子」。それぞれ、向いていないと悩み諦めてしまっても、二人で一つの夢を追いかげ奮闘し続ける姿にとても心を打たれました。一人では無理なことも二人なら頑張れる。人と犬、言葉は通じなくても心は通じている。そんな絆がえがかれた、この感動の物語をぜひ読んでいただきたいと思います。

3 AHR 岩下 愛依



■大塚 敦子
『犬が来る病院』

アメリカではセラピー犬の歴史が古く、子どもの病院や病棟にセラピー犬が来るのはごく当たり前のことになっています。

日本では2003年2月に聖路加国際病院小児病棟でセラピー犬訪問活動が始まりました。この本はその小児病棟で命をかけて病と闘っている子ども達とセラピー犬の間に実際にあったお話しです。難病にもめげず前向きな子ども達の姿に心を打たれ、生きていることの大切さを改めて感じることができます。

子ども達の写真も沢山載っていて、入院の様子も分かりやすく、セラピー犬や小児病棟に興味のある方はもちろん、沢山の方にぜひ読んでいただきたいです。

107HR 山内 佑育



■小森康治（文） 三島正（写真）
『ありがとう 障害犬タロー』

この本には、生後すぐに原因不明の難病におかされ、尻尾と両耳、そして4本の足が壊死し、切断することになった障害犬タローのことが書かれています。中には絵やタローの写真が沢山載っているので普段あまり本を読まない人でも楽しく読むことができると思います。この本を通して、タローの飼い主である小森康治さんの伝えたいことが沢山の人々に伝わってくれたら嬉しいです。

209HR 松島 彩渚

次回のキーワードは・・・

「 春 」「 はじまり 」

はじまりのとき・・・今、新しいスタート地点に立つみなさんに読んで欲しい本を紹介します。

おたのしみに！！！